

普及活動情勢報告（平成29年5月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

（株）れいほく未来の経営拡大を目指して！ ～定期的に会を持ち協議～



（株）れいほく未来との打合せ

4月26日に、（株）れいほく未来の経営強化を目指し、同社の社員をはじめ、JA・普及所の関係職員など8人が参加し、今年度1回目の打合せ会を普及所で開催しました。

前作の反省点を踏まえ、今作が始まる前までに検討して絞り込んだ作付計画、販売実績、フェイスブックを活用して研修生募集等情報発信することなどを協議しました。

会を通して、同社の経営目標の達成にむけた進捗状況を共有し、関係機関の連携方法について再確認することができました。

普及所は引き続き、部門毎の販売目標額の達成や研修生の確保・育成などについて、重点的に支援していきます。

今シーズンの組織活動やトマト栽培に向けて ～「大豊とまと」が総会と勉強会を開催～



緑肥に関する勉強会を実施

大豊町の有機栽培トマト農家を中心に組織された「大豊とまと」は、5月2日に大豊町立山村農業実践センターで総会を開催し、農家8人が参加しました。総会では、今年度の活動計画等を検討しました。

総会終了後には、緑肥利用に関する勉強会を開催しました。勉強会では、普及所から緑肥の効果を、種苗会社の担当者から利用事例を紹介しました。

農家からは「緑肥の利用にあたっては、冬期の休閑期に十分な生育を確保することが課題となるが、本年度に試作をしてみたい」等の声がありました。

普及所は、組織活動や各農家の安定生産にむけて、引き続き支援していきます。

栽培管理を徹底して増収へ ～JA土佐れいほくカラーピーマン部会現地検討会～



熱心に話を聞く部会員

5月11日、JA土佐れいほくカラーピーマン部会は、土佐町で現地検討会を開催し、計25人の生産者が参加しました。

普及所からは、定植後の管理や天敵の活用などを説明しました。参加者は、ハウス内を適温に保つための朝夕の保温方法や日中の換気方法、天敵を定着させるためにハウス内にムギやクレオメなどのバンカープラントを植栽している状況などについて情報交換しました。

普及所は、今後も適期の栽培管理を徹底するため、JAと連携して部会活動を支援していきます。

高い品質の花き生産を目指して ～花きの現地検討会を開催～



現地検討会の様子

5月11日、とされいほく Confidence Flower は、現地検討会を開催し、部会員3人が参加しました。現地検討会では、主力品目となるオリエンタル系ユリの栽培ほ場を中心に巡回し、意見交換を行いました。

普及所からは、昨年度調査した「標高差の違いがハウス内の気温や切り花品質に及ぼす影響」について説明し、標高300～900mの栽培ハウスを利用して5月～12月までリレー出荷する方法を協議しました。

農家からは「出荷時期により切り花品質が異なる。高い品質の花きをより安定して出荷していく必要がある」などの声が聞かれました。

管内の花き生産は、夏秋期に収穫ピークを迎えるため、継続して安定生産を支援していきます。

嶺北地域の農業活性化に向けて！ ～第1回嶺振農業部会を開催～



今年度の取組について協議

5月15日に嶺北地域農林業振興連絡協議会（嶺振）第1回農業部会を普及所で開催し、町村やJA、普及所等関係者17人が出席しました。

本年度の事業計画を検討した後、部会で取り組んでいる地域振興計画について協議しました。その結果、今年度はJA生産部会の基幹品目ごとにビジョンを協議して明確にすることや経営モデルを再検討することが決まりました。

また、産地・流通支援課からクラスター事業について情報提供がありました。

普及所は、関係機関や生産者と協力し、事業計画の実践とともにビジョン作成や経営モデルの検討に取り組んでいきます。

今後の肥培管理などを徹底 ～シシトウ部会現地検討会～



現地検討会の様子

5月15～17日、JA土佐れいほくシシトウ部会は、大豊町、土佐町、本山町で現地検討会を開催し、計37戸の生産者が参加しました。

普及所からは今後の肥培管理や病虫害対策について指導し、スワルスキーカブリダニの天敵製剤「バンカーシート」の実証ほについて紹介しました。

生産者には定期的な薬剤散布の重要性などが理解されました。

普及所は、JAと連携して定期的な土壌溶液診断を活用した肥培管理や病虫害対策の徹底を図り、生産安定にむけて支援していきます。

晴天のもと、本山町でお田植え式 ～新嘗祭献穀田～



献穀者と早乙女で手植え

5月18日、本山町下津野の川村隆重氏のほ場で、JA土佐れいほく、本山町役場など50人が参加し、献穀田のお田植え式が開催されました。

収穫までの無事を祈願した後に、献穀者、早乙女など7人が「にこまる」を手植えしました。

普及所は献穀候補者の選定、実行委員会の設置などについて支援してきました。

献穀者からは、「昨年日本一に輝いたブランド米（土佐天空の郷）をぜひ食べていただきたい」との声が聞かれました。

普及所は、10月の抜穂式に向けて、移植後の水管理、穂肥の適期施用など栽培管理について支援していきます。